



アクティビティ STEP1-D1 子どもの権利条約を学ぶ

「子どもの権利条約カード付きハンドブック」を読みながら、子どもの権利条約について知っていきます。
そして、いくつかの問いを通して、自分の身の回りの環境と子どもの権利の関わりについて学んでいきます。

目的:

学習者が、子どもの権利条約の背景や、子どもの権利条約の内容について知り、「すべての子どもは生まれながらにして、子どもの権利をもち、一人の人間として尊重されるべき尊い存在である」という子どもの権利条約の理念を知る。そして、子どもは誰しも、子どもの権利を持っていることや、子どもの権利行使の主体であることを子ども自身が認識し、自分自身やまわりの子どもの権利が保障されるためにはどうしたらよいかについて考えていくようになる。

所要時間:45分～

実施基準: ★★★★★

形式: クラス全体/グループワーク

用意する物: 子どもの権利条約カード付きハンドブック(カード部分のみも可)

ワークの進め方:

1. 「子どもの権利」と聞いて思い浮かべる言葉を共有する。
2. 「子どもの権利条約カード付きハンドブック」の最初の見開きページ(PDFでは2,3ページ)を丁寧に読む。
※子どもの権利保障のために義務を負っているのは国や親であり、子どもではないことを指導者は理解する。
3. 「子どもの権利条約カード付きハンドブック」(PDFでは4ページ)を読んでいく。
4. 子どもの権利条約の内容を見ていく。(子どもの権利条約カード付ハンドブック PDF 6ページ以降)
5. いくつかの困難な場面を提示し、その時に関わる子どもの権利・守られるべき子どもの権利をカードの中から選ぶ。
※時間に応じて取り上げる場面の数を変更する。

例)

場面1: お腹がすいたので食べるものがほしい。

場面2: 体の調子が悪い。熱とだるさが数日間ずっと続いている。

場面3: SNSで繋がった人とメッセージのやりとりをしていたら、「顔が映ってる写真送って～」と言われた。

場面4: 学校でいじめを受けてつらい。本当は学校で学びたいけど、いじめったちがいる学校にはもう通いたくない。

場面5: 家の近くの公園では、「ボールを使って遊んではいけません」というルールがある。

本当はその公園でバレーボールをして遊びたい。児童館で働くスタッフに相談した。

場面6: 学校に先生になるという夢があり、大学に進学予定だったが、親が失業し、「お金がないから大学進学をやめて働いてほしい」と言われた。

6. 振り返りでは感じたことを話したり、自分が特に大切だと思った権利・お気に入りの権利を選んだりして共有する。

※上記の困難な場面は、子どもの権利を“持っていないから”起きているものではありません。

「子どもの権利のカードは、本来子ども全員が全部持っているのが当たり前の状況であること」

「困難な場面では、多くの場合、子ども自身が子どもの権利を知らないこと・おとなが子どもの権利を守ろうとする姿勢がないこと・子どもの権利を守るための制度やシステムが整っていないことが原因となっていること」

「権利が守られていなければ、声をあげて、その権利は取り戻されるべきであること」

の3点は、しっかりと子どもたちに認識しておいてほしいことです。